令和６年度　岐阜市障害者総合支援協議会　第４回専門部会　議事要旨

日　時　令和６年９月２６日（木）１５：３０～１７：００
場　所　岐阜市役所６－１大会議室
出席者　精神科医療機関　　７名
　　訪問看護事業所　　１６名
　　関係団体・機関　　９名
　　基幹相談支援サテライト　　４名
　　行政機関　　１１名
　　合計　４７名

〇検討テーマ
「精神障がい者が地域で安心して暮らすために
　～精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの強化に向けて『地域連携』～」
　精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（以下、「にも包括」）の強化に向けて、各分野の強みを支援者間で共有し、各支援者が繋がれる体制を構築することができるよう「地域連携」について、協議を行った。

１．はじめに
　「にも包括」協議の場の目的及び考え方について

２．岐阜市における精神保健の現状、今までの取り組みについて
（１）岐阜市における精神保健の現状について（資料１）
（２）昨年開催した協議の場から今年度までの経過説明

３．グループワーク
　目的：グループワークを通じて他機関の業務や強みを理解し、「連携」という視点で「支援関係機関同士の密接で双方向の連携を継続的に維持するための仕組みづくり」を考える。
　テーマ：
　①　連携のためにどのようなことをしているか
　②　各機関の強みを生かし、どんな仕組みがあるとよいか
　　（支援者同士のつながりの網目を細かくするためにはどうすればいいか）

４．グループ発表
　グループワークで話し合った内容について発表する。（２グループ）
　①　について
　・相談支援専門員やケアマネジャーの関わりがある方は本人に何かあれば相談支援専門員、ケアマネジャーに連絡を入れている。電話が難しい場合はショートメールなどを活用している。相談支援専門員、ケアマネジャーの関わりがない方はコーディネートしてくれてい

る機関がないか確認している。
・それぞれの支援者が様々な機関と繋がれる場を大事にし、積極的に参加している。
・個別ケースを相談する中でつながりを広げている。
・話し合うテーマにあった「連携」という言葉が独り歩きしていると感じる。「連携」という言葉が届いていなかったり、当たり前になっていない事業所がある。今回のような場を通じ、「連携」の大切さが分かったのではないか。

② について
・多機関が集まる場で関係づくりをする。
・多機関が集まる場の継続。
・問題があったときにカンファレンスを開くだけではなく、平時の時から顔を合わせる機会があるとよい。
・訪問看護は訪問結果を主治医に伝えているが、病院からの返信様式が統一されるとよい。
・コア会議の情報などが現場に届いていない部分があるので、届け方など考えていく必要がある。

5．岐阜県密着アドバイザー兼構築推進サポーターからの意見
・関係者に情報が届いていなかったり、当たり前の言葉が共通理解されていなければ「連携」とはいえない。
・今回の場では、顔の見える関係づくりという部分では意味がある。グループワークの中で各機関が持つ強みや思いなど、お互いに知ることができたため、今後の業務で本人のニーズに沿った「連携」に生かせるとよい。

6．まとめ、今後の方針
・グループワークで出た意見はコア会議で整理し、今後取り組むことを書面にて提案していく。
・「にも包括」推進のためには、地域の現状や課題を見つけ、具体的に取り組むことが大切。
・精神保健やメンタルヘルスに課題をもった方が、地域で自分らしく安心して暮らせるようになることは、誰にとっても優しく暮らしやすい地域づくりにつながる。そこに向けて進んでいく。

7．当日の様子

８．当日アンケートの結果

（１）本日の専門部会（テーマ別分科会）について

良かった　…５５．３％
概ね良かった　…４２．１％
普通　…　２．６％
あまり良くなかった　…　０．０％
良くなかった　…　０．０％

（２）岐阜市における精神保健分野の概要について

理解できた　…５０．０％
概ね理解できた　…３９．５％
普通　…　７．９％
あまり理解できなかった　…　２．６％
理解できなかった　…　０．０％

（３）グループワークはいかがでしたか

良かった　…６０．５％
概ね良かった　…３４．３％
普通　…　２．６％
あまり良くなかった　…　０．０％
良くなかった　…　０．０％
未回答　…　２．６％

【理由】

・それぞれの機関でどのような連携を必要としているのか知ることができた。
・地域や他機関との情報共有、また、それぞれの取組を知ることができた。
・各所属機関の関わり方や思いを知ることができて良かった。
・（連携するための）仕組み作りをするためにどうすればいいのか、課題は山積みと思った。
・誰もが連携できるシステムを作ってほしい。
・他職種とのグループワークをもっとしたかった。
・同じ気持ちで関わりを地道に行ってくれていることが分かって安心した。
・今まで知らなかった情報を知る機会になり、大変参考になった。
・各機関の役割を知る機会になった。
・訪問看護事業所の考える支援と行政との距離感の難しさを知った。
・話しやすい場を設けてもらえた。先進的な事例（県外）を聞くことができた。
・各機関の現在を知る機会になり、今後取り組むべき課題を明確にすることができた。
・いろいろな人の話が生で聞けることはとても良いと思う。
・連携をすることが当たり前と思っていたが、そうでないということが分かったので共通言語で話せるようにすることが大切だと学べた。
・事業所や病院の実態を知ることができて良かった。
・各支援機関等の取り組み、意見を聞くことができた。
・訪問看護事業所が「繋がれる場になって良かった。」と言われて意味があったが、単発で終わらないようにしないといけないと思う。
・様々な関係機関の方が参加されていたため、いろいろな意見が出た半面、まとまりに欠け

てしまい、連携を維持するための仕組みづくりまでの話し合いができなかった。
・関係者が困っていること、こんな風に話しができて良かったこと等、共有ができた。
・とても難しかった。まだまだ連携を含め、できることがあると感じた。
・「話せてよかった。またこういった機会に参加したい。」「他のグループの人とも話をしたかった。」等の声が聞かれた。

（4）他機関の連携に関する取り組みを聞き、参考になったことや自機関・団体で取り組めそうだと思ったことを教えてください
・顔が見える関係を作る。
・連携という言葉について、支援者であれば知ってはいるものの実践できているのか。実践したつもりになっていてはいけないと振り返る必要性を感じた。
・困難事例の共有をできる場があるといいなと思った。
・本日会えた各機関の方と今後も連絡を取り合いたい。
・他事業所の役割を知りたい。
・今後、保健センターに相談していきたいと思う。
・会議にできるだけ参加することが連携の一歩。
・連携の在り方（他職種、各部門と情報共有をしていく）を当たり前にしていきたい。
・病院等の大変さが分かり、引き受けるタイミングが大事だと感じた。引き受ける時は状況をかなり詳しく聞かないといけないと改めて思った。
・紹介してもらい、サービスを始めるので連携に困ったことはあまりないが今後も情報発信していきたい。
・訪問看護の関わりが詳しく聞けて良かった。
・形式的な会議ではなく、いつも情報が見られる仕組みづくり。事例検討会を積み重ねていくこと。
・クライエントのニーズを把握し、関係者と共有していくことが大切であると感じた。
・関係機関・団体としてもっと色々な機関と繋がることができたらよい。
・全てが参考になる。
・足を運んで顔を合わせる。
・他機関の役割をもっと勉強しなければいけないと思った。
・繋がったことがない機関・事業所同士が繋がる企画・場作りを行う。
・PR していくことが大切。
・このような会議に参加し、顔の見える関係性を構築したい。
・ケースを通じて連携しているという意見が多くあった。
・多機関が主催する研修会に積極的に参加しているといった意見があった。

（5）つながりをもちたい（連携したい）と思う機関・団体・職種などがあれば教えてください
・連携を取るべき機関ばかり。どこの機関でどのような取り組みがされているのか、情報をアップデートしていけるとよい。
・弁護士、後見業務を行う団体、ピアグループ、民生委員の団体、調剤薬局。
・役割を知らない機関と繋がること。お互いを理解できると良い。
・労働関係。
・基幹相談支援、相談支援専門員、精神科医療機関（クリニック含む）、訪問看護、行政。
・岐阜保護観察所。
・精神保健福祉分野に関わる機関。
・全ての機関、団体、職種。

・医療・保健・福祉だけでなく地域住民との連携も大切。

（６）精神保健分野の中で今後取り上げてほしいテーマ、内容があればご記入ください

・独居の方へのフォローはどのように取り組まれているのか、治療継続への取り組みはあるのか。
・具体的な困難ケースを提示しての支援側の勉強会。
・もっと地域の困りごとを知りたい。そして解決できた事例を知りたい。
・独居や若い人への困難事例。ケーステーマカンファレンスを行う。
・制度や各機関の役割。
・精神保健制度に関すること。
・一つの事例でケースワーク。
・多世代の家族構成における事例にどう関わるか。現場サイドで悩んでいることを学ぶ。
・続・連携。
・精神障がいの家族を持つ、またケアしている人たちへの保健所の役割や家庭訪問等。
・グレーゾーンの支援、障害者手帳を持たないメンタルヘルス不調を抱える人の支援。
・未受診の方への対応、連携方法。

（７）その他ご意見や感想がありましたらぜひお聞かせください

・「にも包括」の難しさを改めて知ることができた。精神疾患を患っている方が地域で過ごしやすい世の中を作っていくためには支援者の連携が必須であると感じた。私達が連携を取りやすい環境を作っていくべきだと思う。
・新しい仕組み、システムを作る前に、新たな仕事を作り出すと働き手がどんどんいなくなるためそのことを踏まえてほしい。
・直接顔を合わせるにも限界があるので web、オンラインでの繋がりがあるとスムーズ。
・グループワークはいつも他職種の意見を聞くことができて良い。もっと他職種の役割を知りたい。
・福祉、医療、行政機関だけではなく、労働関係、教育関係等他の分野の機関との繋がりを作る機会になってほしい。
・とても有意義な会となった。改めて連携の大切さを認識し、情報共有を積極的に行っていきたい。
・「にも包括」を初めて知った。勉強不足。少しずつまだ未治療の方等の役に立てるよう活動したい。
・このような会の頻度を増やしてもらえたらいい。
・関係機関、団体の立場からみると、「にも包括」のことをどれだけの職員が知っているだろうかと思う。全関係機関・団体で参加できる機会があればありがたい。
・初めて参加し、地域の現状及び課題を知る機会になり、とても有意義であった。今後とも立場が許す限り、参加したい。
・もう少し気軽に相談や話ができる会があればよい。
・今日はとても良い機会になった。いろいろな人が集まる場がコロナ以降減っているのでやはり顔を合わせて話し合うことが大切だと思った。
・グループワークの発表は本当にそうだと思う。「連携」したつもりになっていないか、誰もが振り返る必要がある。
・悩みや情報を共有する場があってもよいと思う。事例を通じた検討会のようなものの方がやった感がある。
・「にも包括」について初めて聞いた。
・岐阜市の取り組みの方向性を知ることができて良かった。

・もっと家族の参加を増やしてほしい。相談支援専門員を入れてほしい。
・最後の方で「連携したい」という意見があったが、ガヤガヤと話せる場があれば解決するので、やるしかないと思う。
・精神障がい者だけでなく、メンタルヘルスに課題を抱えた方へのアプローチ。
・会議で顔を見て話をしながら支援の方向性を皆で決めることが大切だと改めて思う。支援者が安心して支援できることが大切だと思う。
・協議会ではなく、現場の声をもっと聴ける場が求められている。何度か声を聴く場を設け、課題や優先順位等、現場が認識し理解した上ですすめていけるとよい。
・他のグループの人とはあまり話せなかったので、大勢の人数もいいが、もう少し少ない人数で集まってみたい。たとえば地域ごとに集まってみるなどもよいかと思った。